

◆オンライン震災学習説明会

令和3年1月8日

【釜石地区合同チーム】 参加者

- (株) かまいしDMC いのちをつなぐ未来館
- (一社)三陸ひとつなぎ自然学校
- NPO法人 おはこざき市民会議
- 浜辺の料理宿 宝来館

釜石市鵜住居地区

- # 釜石の出来事
- # 99.8%
- # 多様な防災プログラム
- # ラグビースタジアム
- # ラグビー体験
- # 宝来館
- # 根浜キャンプ場
- # 漁業体験



釜石鵜住居地区での防災学習



津波伝承施設



スタジアム



- 1 主要施設がコンパクトに配置。移動時間が節約できる
- 2 防災学習+漁業体験、料理体験、ラグビー体験等が可能
- 3 語り部だけではない、伝えるための工夫が満載

釜石鵜住居地区パートナーズ

- 1 団体・地域でおもてなし
- 2 プログラムを協力して運営→大人数受入れ可能
- 3 各種研修でスキルアップ



かまいしDMC

- 1 観光庁認定重点支援DMO（観光まちづくり法人）
- 2 震災を経験したスタッフによるガイド
- 3 お弁当、BBQの手配可能

津波伝承施設運営



ラグビー体験



スタジアム案内



キャンプ場でのアクティビティ



SDGs 発見ワーク

SDGs ネイチャーゲーム ディスカパワーク
この「まち」大好き SDGs アクション

- ① 『まち』を歩いて発見アイテムを探し、チェックしよう。
- ② 発見アイテムにあるSDGs 17の目標と上のつながりをみてみよう。
- ③ 発見アイテムにある一つのSDGs 17の目標の他にどんな目標がつながるか考えてみよう。

1 自然環境 あらかる場所で、あらかるの自然の価値を味わわせる	10 人や国の平等をなくさず
2 健全な生態系を、持続可能な農業で食料の供給を確保	11 歴史を尊重し、万人の遺産に誇り、まちが誇りあふれるまちをつくらう
3 安全な水と衛生を、健康な暮らしを支える	12 自然資源を利用したものを捨つらず、責任ある消費と生産で自然と調和した暮らしを
4 すべての人に公平で質の高い教育を、すべての人にもいつまでも学べる機会を	13 気候変動とその影響に立ち向かう
5 ジェンダーの平等を、すべての世代の女性に実現と力づける	14 海の豊かさを守ろう
6 すべての人に清潔な水を、トイレを豊かに	15 土地にやさしいものや、自然の豊かさを、まちのつながりを感じ、海の豊かさを守ろう
7 自然のエネルギーを利用した再生可能エネルギーやクールエネルギーをすべての人に	16 全ての人に以て公平な社会をつくらう
8 すべての人のために持続可能な経済成長と働きがいのある人雇わしい仕事を	17 人と人、地域、そして、世界とつながりから持続可能な社会をつくらう
9 持続可能な産業と技術革新の発展をつくらう	

以上7国連人目録シニアリングネイチャー協会が持続可能な開発目標（SDGs）を表現しています

この「まち」大好き発見カード
見つけたものを体験したことチェック！

風を感じよう	鳥の声を聞こう	自然のエネルギーを利用して、暮らしを
歴史をたのんじゃおう	このまちのいいところを探そう	自然の香りを楽しもう
省エネルギーなものを	深呼吸をしよう	飲む水
木を大切にしよう	地域の人のつながりを感じよう	自然素材を利用して

⑦にはSDGs17目標のどのアイコンが入るかな？ Sharing Nature

生徒の自主性を引き出す「釜石式」 防災教育研修（教職員向け）



児童・生徒の99.8%が震災時に生き抜くことができた「釜石の出来事」。その背景には、生徒一人一人の的確な状況判断がありました。防災に対する「生徒の自主性」はどのような防災教育によって育まれたのか。

震災発生直後の状況を再現したケースワークと当時中学生であったスタッフによる避難道ツアーで震災をリアルに体感した後、「生徒の自主性」を育んだ「釜石式」防災教育のポイントを解説します。
ぜひ自校の防災教育にご活用下さい！

所要時間：4時間30分

料金：35,000円/1名

※最小催行人数10名、最大24名まで
※10名以上は1名毎35,000円追加

- 1 地震発生直後の状況をケースワークで疑似体験
- 2 震災当時中学生であったスタッフと歩く避難道ツアー
- 3 震災以前に行われていた防災教育を紐解くワーク

✓避難道ツアーがあるので、夏季は熱中症対策として、帽子・飲み物を持参の上、歩きやすい靴で参加してください

✓教員を目指す大学生等の参加も可能です

✓13:30開始18:00終了（応相談）

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



4. 質の高い教育をみんなに

11. 住み続けられる街づくりを

釜石鵜住居復興スタジアム見学 & 震災伝承プログラム



2019年ラグビーワールドカップで使用され、大きな話題となった釜石鵜住居復興スタジアム。そこは、東日本大震災以前には地域の小中学生が通う学校があった場所。

震災では、学校管理下にあった児童生徒が全員助かり、「釜石の出来事」と呼ばれる舞台となった。

釜石鵜住居復興スタジアムにまつわる震災及び建設のエピソードを聞き、スタジアム内部(ロッカールームなど)の見学までできるスタジアム見学&震災伝承プログラム。

所要時間：40～60分

料金：10,000円/10名

※10名以下は全員で10,000円

※11名以上は1名毎1,000円追加

※41～199名は、掛率80%

※200名以上は、掛け率60%

- 1 釜石の児童・生徒がなぜ助かったか、その取り組みを知る
- 2 震災当時、中学生であったスタッフによるガイド
- 3 スタジアム内部の見学

✓当プログラムではグラウンド内には入れません。

✓当プログラムではグラウンド内には入れません。



住み続けられる街づくりを

災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

「釜石の出来事」の背景を紐解く 津波避難道体験



児童・生徒の99.8%が震災時に生き抜くことができた「釜石の出来事」の背景には、どのような防災教育が行われていたのか。

震災当時中学生で、実際に防災教育を受けてきたスタッフと一緒に約2 kmの避難道を歩き、当時を振り返りながらそのポイントを紐解きます。

※「いのちをつなぐ未来館」での説明を除く、60分の短縮プランも可能です。

所要時間：90分

料金：15,000 円/10 名

※10 名以下は全員で 1,5万 円

※10名以上は1名毎 1,500 円追加

※41～150名は、掛率 80%

1 地震発生後の生徒達の行動を知る

2 震災当時、中学生であったスタッフによるガイド

3 実際に使われた避難路を体験



住み続けられる街づくりを

災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

✓夏季は熱中症対策として、帽子・飲み物を持参してください

✓歩きやすい靴で参加してください

安否札を作ろう！ いのちを救う切り札



安否札（あんぴふだ）とは、釜石東中学校で取り組まれていた防災教育活動の一つです。避難をする際に玄関などにかけておくことで、避難をしたことを知らせることができ、避難遅れを減らす効果が出来ます。

安否札を作成するまでの背景や生徒達の取り組みを知る事で災害に対する備え方や、防災について知る事が出来ます。実際に安否札を作る行程を通して、自分の住む町で起こりうる災害と向き合います。

所要時間：45分～60分

料金：2500円/5名

※5名以下全員で2500円

※6名以上は1名毎500円追加

※101名以上は掛率80%

- 1 「安否札」の背景を知る
- 2 安否札作成を通して、災害と向き合う
- 3 災害に備える意識を持つ

✓作成した安否札はお土産としてお持ち帰り頂けます。

✓少人数の場合、未来館で開催、大人数の場合は体育館を使用

✓最大120名まで対応可能



住み続けられる街づくりを

災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

体を動かしながら防災を体験！ 防災運動会！



いつ発生するかわからない災害から自分のいのちを守るためには「防災学習」が必要です。防災運動会ではさまざまな防災の知識を体験しながら身に着けることができます。

「防災」と言えば、「難しい」、「大変そう」などといった印象が持たれることが多いですが、実は簡単に楽しく、遊びながら学べるものはたくさんあります。ゲーム形式で体験することで、防災に対するイメージも変わります。

体を動かすプログラムとして人気。他の施設で語り部の話を聞く場合に、変化を持たせる意味でおすすめします。

- 1 **さまざまな防災の知識に触れる**
- 2 **防災を体験を通じて学ぶ**
- 3 **他の施設と重複しない内容。運動不足の解消にも。**

所要時間：45分～120分

料金：7,500円/15名

※15名以下全員で7,500円

※15名以上は1名毎500円追加

※101名以上は掛率80%

✓動きやすい格好で参加してください

✓最大300名まで対応可能

✓ラグビー場（屋外）での実施も可能



住み続けられる街づくりを

災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

株式会社かまいしDMC



- ◆ 設立 2018年4月
- ◆ 本社住所 〒026-0012 岩手県釜石市魚河岸 3-3

【今回ご紹介した各プログラムのお問い合わせ先】

- ◆いのちをつなぐ未来館（うのすまい・トモス内）

〒026-0301 岩手県釜石市鶴住居町4丁目901

TEL 0193-27-5666 / MAIL tomosu@dmo-kamaishi.com

WEB <https://unosumai-tomosu.jp/miraikan.html>

Facebook <https://www.facebook.com/unosumaitomosu/>



一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校 (さんつな)

代表理事 伊藤 聡





宮城県沖地震が発生する確率99%

生きるか死ぬかの選択

“被災者”と呼ばれる存在へ



未来のいのちを守る取り組みが重要

『三陸ひとつなぎ自然学校』のとりくみ

◆ 未来の担い手育成 ～未来を生きるチカラを育む～



放課後子ども教室

小学生が自由に過ごす
放課後の居場所づくり
- (月) (木) (金) -
時間: 15:00-17:00

774プロジェクト

釜石高校内の放課後の
居場所づくり
- (火) (木) -
時間: 17:00-19:30

あおぞらパーク

子どもたちを対象とした
週末の野外の遊び場づくり
時間: 10:00-15:00



高校生プロジェクトの
伴走サポート



ボランティアコーディネート
- ボランティアを通してまちに関わる -

◆ 体験プログラムコーディネート



・震災の追体験、災害教育、語り部
・地域の自然、暮らし体験 etc

【楽しく身につく防災シリーズ】

火おこし&防災食おやつづくり



「火おこし」は、森の中で薪を集めて”マッチ”を使って火おこしにチャレンジ！火がおきる仕組みを体感しておくことは、イザというときに絶対に役に立ちます。

防災食おやつは「簡単お湯ぽちゃ料理」。ポリ袋に材料を全部入れて、自分で沸かしたお湯に入れるだけで完成です。

2011年3月11日、多くの命が助かった実際の避難道が会場です。当日の出来事を動画や写真を使いながらお伝えする震災の追体験と火おこしを組み合わせた内容です。

- 1 イザというときに役立つ火おこし体験
- 2 落ち葉や枝を使うので森や避難道の整備にもなります
- 3 東日本大震災で実際に使われた避難道で行う追体験

所要時間：120～150分
 料金：2,000円/一人あたり
 定員：30名まで
 ※5名以下は全員で10,000円

✓汚れてもいい服装や靴でご参加ください。

✓防災食づくりがないパターンも可能です。
 その際は「90分、1,000円/一人あたり」



質の高い教育をみんなに

住み続けられる街づくりを

陸の豊かさを守ろう

【復興のプロセスに関わる】

ボランティア活動



東日本大震災の復興のプロセスにおいて、世界中から訪れるボランティアの皆さんは欠かせない存在です。
当団体は2011年3月の発災直後から、釜石市北部の鶴住居地域を主な活動エリアとして、復興のフェーズの変化に合わせた支援活動のコーディネートを行ってきました。

現在は、津波に耐えて生き残った海岸林や海浜植物を守りつなく活動や、「釜石原木椎茸再生プロジェクト」等の新しいチャレンジを行う活動とのマッチングを行っています。

復興のプロセスに関わる活動にぜひご参加ください！

- 1 活動前に震災復興との関わりについても説明します
- 2 必要な道具は全て準備します ※軍手等の個人装備は各自
- 3 興味関心や時間によって柔軟にアレンジ可能です

所要時間：60～180分
料金：500円/一人あたり
定員：100名
※100名以上は要相談

✓汚れてもいい、動きやすい服装や靴でご参加ください。

✓活動内容によっては軍手や長靴が必要となります。

✓荒天時は屋外での活動は中止。語り部やバスによる市内見学などに変更となります。



質の高い教育をみんなに
海の豊かさを守ろう
陸の豊かさも守ろう
パートナーシップで目標を達成しよう

【復興のプロセスを感じる】

みちのく潮風トレイル 鶉住居～根浜まちあるき



フィールドは釜石市の北部に位置する鶉住居～根浜エリア。三陸鉄道鶉住居駅をスタートして、鶉住居復興スタジアムに立ち寄りながら根浜海岸までの「みちのく潮風トレイル」の一部ルート歩きます。

特に鶉住居復興スタジアムは元々学校が建っていた場所で、あの日生徒たちが津波に追われながら1km以上を逃げきったルートも含まれています。

過去～現在～未来をまちあるきを通して感じて頂きます。

- 1 復興のプロセスからの学び
- 2 子どもたちが逃げたルートを辿る
- 3 みちのく潮風トレイルのコースを歩く

所要時間：120分

料金：1,000 円/一人あたり

定員：40名まで

※10名以下は全員で 10,000 円

✓動きやすい服装や靴でご参加ください。

✓荒天時は中止。小雨程度は雨具を使用して実施します。



質の高い教育をみんなに

住み続けられる街づくりを

一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校

代表理事 伊藤 聡

設立 2012年4月1日 (法人登記 2013年5月28日)



住所 〒026-0301 岩手県釜石市鶉住居町29-17-20

TEL/FAX 0193-55-4630 / hitotsunagi.main@gmail.com

WEB <http://santsuna.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/sanrikuhitotsunagi>

NPOおはこざき市民会議

団体紹介

釜石市箱崎半島部の漁業集落8地区の
「復興まちづくり」に取り組む

・2012年に設立。役員には8地区の町内会長が全員就任。

事業① 漁業の学舎（ウミガッコウ）推進事業

- ・ 漁業体験ツアーの実施
- ・ 津波の被害や漁業の復興について防災学習も併せて実施⇒学校の体験学習として定着

事業② 復興まちづくり・ひとづくり事業

- ・ 各地区の共通の課題を県や市の担当者と協働して解決
- ・ 災害時の半島部の孤立を避ける新道開設を要望
- ・ コミュニティづくりや高齢化対応

事業③ 特産品の開発と販売促進事業

- ・ 地域資源を活かした特産品の開発と加工
- ・ 郷土料理講習会の開催

漁業体験・養殖場見学ツアー & 震災伝承プログラム



釜石市箱崎半島部にある漁業集落は、東日本大震災津波により家屋のみならず、漁船や養殖場など、漁業施設も甚大な被害を受けた。

減少した漁業従事者の確保と育成、および安定した生活のための増収入を図り、漁業体験ツアーを実施してきた。

当日の津波の様子や漁業の復興に関する講話を交えながら、ホタテのはたき（洗浄）作業などの漁業体験、漁船クルージング、海産物の浜焼きが体験できるプログラム。

※お昼ご飯に、海と山の恵みをふんだんに使ったお弁当を開発中。

所要時間：2.5 ～ 3時間

料金：3,500 円/1 名

※10名以上の団体の場合。最大80名

※10名未満は応相談

※保険料込み

※午前中のみ

- 1 津波の被害や漁業の復興について地域の代表者による説明
- 2 陸での漁業体験や漁船に乗船しての養殖場クルージング
- 3 ホタテ等の海産物の浜焼き体験

✓荒天中止。雨天の場合、体験内容を変更して実施可能です。

✓所要時間の短縮等、臨機応変に対応可能です。

14 海の豊かさを
守ろう



海の豊かさを守ろう

漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。

NPOおはこざき市民会議



- ◆ 設立 2012年2月
- ◆ 本社所在地 〒026-0303 岩手県釜石市箱崎町第9地割10

【今回ご紹介した各プログラムのお問い合わせ先】

◆事務所住所

〒026-0303 岩手県釜石市箱崎町第8地割6-10

TEL 090-9910-2802 / MAIL info@ohakozaki.com

WEB <http://ohakozaki.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/ohakozaki>



浜辺のあったか料理宿 宝来館

宝来館

1963年創業



1995年に北海道南西沖地震、阪神淡路大震災を教訓に、鉄骨4階建ての建物に耐震工事を行う（市の避難ビルに認定される）

同時期に宿の裏山に避難道を整備し、東日本大震災の際にはその避難道を使い逃げた

被災後は2015年リニューアルオープンを迎え、震災の経験を語りつぐ活動等を行う

施設概要

- ◆総客室 18部屋
- ◆最大収容人数 55名
- ※貸切対応可

【料金（1泊2食付き）】

- ・生徒 9,000円 ～
- ・先生 12,000円 ～
- ・添乗員 8,000円 ～

- 1 日頃の備えの大切さ
- 2 人と人とのつながりの大切さ
- 3 「助けられる人」から「助ける人」へ



住み続けられる街づくりを

災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。



震災の様子、後に宿が避難所となって「助け合い」ながら村の人たち生活を送った経験

そこから宿を再開し、村のまちづくりの取組

市民一体となったラグビーワールドカップに向けた取組、そして震災10年目から始まる、新たなむらづくりの話

(所要時間 20～60分)

避難道体験

あの日あの時どのように避難を行ったか

実際に避難した避難道に登りながら、日頃の備えの大切さを学んでいただきます

(所要時間 20～40分)



【宝来館女将さんの避難体験談】

震災の犠牲者数が583人に達したという釜石市鶴住居地区。宝来館女将の岩崎昭子さんは、震災発生時、一度は裏山に避難したものの、逃げ遅れた人を誘導するため再び旅館に戻りました。まもなく津波が襲来し、「早く!早く!」と裏山の避難者からの叫ぶ声が響く中、岩崎さんは津波に飲み込まれてしまいました。しかし、なんとか従業員の手をつかむことができ、奇跡的に裏山の裾野にたどり着き生還しました。

「日頃から津波が来ればどこに避難すればよいかを意識し、有事の際は真っ先に避難することが命を守る唯一の方法だ」と語って下さいました。

また、宝来館は地域の津波避難ビルに位置づけられており、津波で避難してきた方々と協力して避難所を運営したとのこと。避難生活での「助け合い」「支え合い」は、日頃からのつながりが重要だと強く感じました。



宝来館 基本情報



- 〒026 - 0301

岩手県釜石市鶉住居町20 - 93 - 18

釜石北IC下車 車5分

- 電話 0193 - 28 - 2526

- FAX 0193 - 28 - 1288

- Mail houraikan@gmail.com

- HP <https://houraikan.jp/>